

いたばし水と緑の会会報

素敵な題字を募集中!

1997. 4. 5 準備0号

発行:いたばし水と緑の会 事務局
〒173 板橋区板橋2-66-1 TEL03-3579-2598
板橋区環境保全課内 FAX03-3579-2589

いたばし水と緑の会 いよいよスタート!

まずはトンボの池掘りから

4月27日, はじまりの会は楽しいフィールドワークです

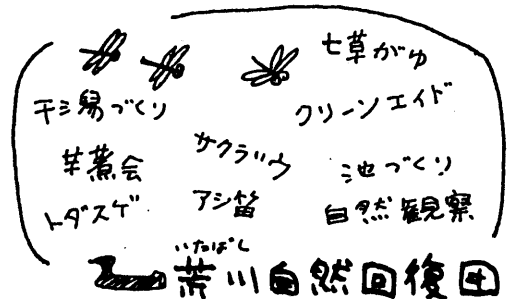
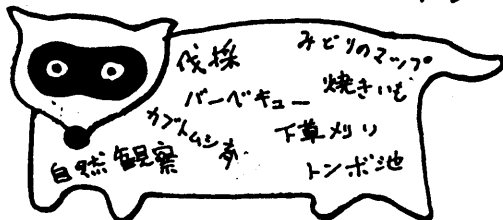
昨年9月の板橋環境会議から半年余、何回もの準備の集まりを経て、いよいよ「いたばし水と緑の会」の活動スタートにこぎつけることができました。

当面の活動テーマはふたつです。ひとつは「赤塚の森ボランティア」、都立赤塚公園大門地区内に水辺の生き物(トンボなど)を呼び寄せる活動から手がけます。もうひとつは「いたばし荒川自然回復団」、笹目橋下流域(右岸)付近で自然地の回復活動を行います。

この会は、区内に残っている自然を大切に、その保全と回復のために市民と行政が協力し合って具体的な活動を行おうではないかと、区内の自然保護団体や関心のある個人が広く集まってつくられました。でも、本当に力を発揮するためには、もっとたくさんの市民の中に広がりをもっていかなければならないし、関係する行政機関にも参加してもらわなければなりません。そのために、この会はあくまでも外に開かれた組織です。そして、なによりも、ここに集まってくるみんなが、共通のテーマに向かって楽しく活動できる組織です。

さあ、まずは、4月27日、現場へ出かけましょう!

赤塚の森ボランティア



イラスト=かがみ りょう

4月27日の詳しい実施要領は2面をご覧ください

呼びかけ人になって

区の花・ニリンソウを保存する会 香取 孝作

ニリンソウが区の花に指定されたのは1980年です。82年には、その保存のための観察・調査を行う団体として「保存する会」が生まれました。以来、15年間、たくさんのお力をお借りしてきました。とはいえ、活動は細々としたものでした。

一方で、衰えることのない開発の波、荒廃する雑木林。本格的な管理・保全策をとる必要性と、わたしたち市民運動の声を生かした行政の施策の必要性を身にしみて感じてきました。それが、昨年9月の板橋環境会議に参加した動機です。

あの時に「雑木林のボランティアをつくろう」と呼びかけさせていただいて以来、多くの方々のお骨折りで、ようやく本会の設立総会を迎えるこ

とになりました。会の設立に努力して下さった方々、会の目的に多くの期待をかけて応援していただいた人々に熱いお礼を申し上げます。

なにもかも初めてのことばかりで、呼びかけてはみたものの、何をしたらよいかも分からない呼びかけ人でしたが、なんとなくここまで来たことでほっとしています。

ゴッホは「まるで自身が花であるように、自然の中で生きたい」と言っていたそうですが、この会が板橋の自然の中の花として、都会の中での新たな環境づくりに、よい影響を与える会になってほしいと思います。

赤塚公園・トンボ池掘り大会&ヤマブキソウを愛でる会

(いたばし水と緑の会はじまりの会)

日時：1997年4月27日(日)午前9時30分
(直接会場に行つての参加も構いません)

集合：高島平図書館前

会場およびイベント：

①都立赤塚公園大門地区でヤマブキソウの観察

②トンボ池(同所東端)で池掘り作業

③カレーライスを食べ、懇談など

参加費：300円(含むボランティア保険加入料)

持ち物：カレーライスのご飯の他に、皿、

コップ、スプーン・箸など食器類

服装：池掘り作業を行いますので、汚れ

てもよい服装でご参加ください。着替えやタオル、軍手、履き物の替えの用意もお願いします。

雨天の場合：

小雨決行ですが、野外行事が不可能な天候の場合には、トンボ池の現場とヤマブキソウを見てから、会場を三園一丁目集会所(三園1-36-1)に変更して行きます。

当日の移動連絡先：

080-64-69757(事務局・木村の携帯電話)

申込：環境保全課 水環境係 (3579)2598

場所は別添フィールドマップ参照!

「いたばし水と緑の会」発足によせて

板橋・自然と遊びの会 かがみ りょう

何年か前、環境庁の「水と緑のネットワークづくりに関する調査」に協力する機会があり、身近な自然とのふれあいの機会を創出している先進的な事例について調査しました。

牛久市、目黒区、国分寺市、市川市、嵐山町、桶が谷沼などで、行政・市民の方に計画や管理、市民活動について話を聞きました。自然を残し回復していくために、行政と市民が協力し、楽しく活動されているのをうらやましく思ったものです。多様な生き物が住み、自然が息づいているという風景は、ほっとしたり、わくわくする、なんとも

いいものでした。

そして、いよいよ板橋区でも、公園課、環境保全課、エコポリスセンター、建設省、区内および周辺の自然保護団体、その他自然を愛する多くの人々が協力し、身近な自然を回復し、楽しもうという活動が始まることになりました。他の地域の人たちがうらやんで参加してくる、そんな活動にしていきたいと思います。

多くの人々の気持ちを合わせていけば、きっと楽しくやれると思います。

あるガマガエルの^{つば}眩き

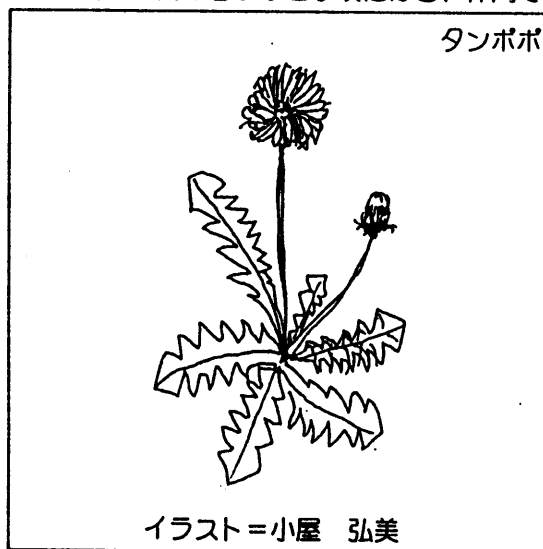
徳丸六丁目 猪鼻 昭二

わしゃ、この春いつもよりだいぶ早く目を覚ましてしまったよ。暖冬のせいばかりではないんだ。なぜかって？ 近くの赤塚公園の一角に、トンボ池をつくる話を聞いたからさ。人間様も楽しいことがある朝は寝てられないというじゃないか。わしの方が歴史は人間よりも長いんだから、人間の方が似ているってことさ。

わしのルーツは北野神社の裏山や、そこにあった池や回りのくめぎ林だったらしい。あの池も林も、田圃（たんぼ）や小川も何もかもなくなり、今は近くの民家や紅梅小学校にある小さい池が子育てに欠かせない命の綱、いや、命の池になっていて感謝してるよ。

少し離れたところに溜池があるが、大きな魚が

いるうえ、水は深くて冷たく、おまけに釣り人がわんさとして、われわれには居心地がよくないね。赤塚植物園の池はちょうど手頃だから、仲間で



混雑するらしいね。わしらは、水は浅くて日がよく当たり、食べ物の植物プランクトンがいっぱいある水辺が欲しいんだから、今度のトンボ池の話はうってつけさ。

トンボ池がつくれ、わしらの生活の場が少しでも増えることは、願ってもないことなんさ。だから、今からウキウキして、つい早く起きてしまった、というわけ。

大 門 に 暮 ら し て

大 門 吉 村 泰 代

主人はガレージ付きという広告に惹かれ、私は目の前に広がるキャベツ畑に魅せられて、引っ越してきて丸2年が過ぎました。

気がつけばここ大門近辺は、木村松夫さんの写真集『あの丘にのほればー武蔵野最後の原風景をゆく』（農文協）にあるように、消滅寸前のその原風景がわずかに残っている、とても貴重なところでした。

数軒の昔からの農家の敷地内には、農作業をするための広い庭があり、半世紀は経ている大きな樹がどっしりと存在し、少し朽ちかけた納屋と今でも水が出るという井戸が風情を添えています。

私の住まいの前のキャベツ畑は、年2回4,000株を出荷しているそうです。保存生け垣と指定のある柵（ヒイラギ）の生け垣に囲まれたその畑は、ご主人の人柄でしょうか、よく手入れされ、そこここに四季の花が植え込まれ、季節ごとに美しい畑となっています。

キャベツ畑の真ん中を、農作業のための細い道が庭につづいています。私の大好きな道です。

その道を眺めていると、柔らかい土の感触とともに、いつかどこかで出会ったような、懐かしい気持ちになります。

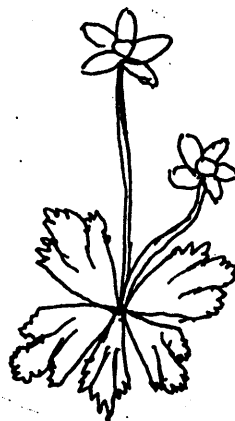
村の鎮守の諏訪神社には真新しい白い幡がいつもはためき、ときおり車を停めて参拝している人

を見かけます。昔の参道脇には樺（ケヤキ）の古木が排気ガスに耐えながらそびえています。

大門の向こうには赤塚城のお山があり、それにつつく赤塚公園と、起伏に富んだこの辺りの地形は、その昔の自然の豊かさを想像させてくれます。

この度、「トンボの育つ池」の実現に向けてのお話をうかがい、まだわずかに残っている自然を、どんな形であれ未来につなげていくことができれば、そのためのお手伝いを是非させていただきたいと思い参加しました。

ニリンソウ



イラスト=小屋 弘美

事務局よりお願い：

会の活動へのご意見をお寄せください。情報・随想・イラストなどの原稿もお待ちしています。

荒川

荒川河川敷

荒川自然
回復地

24

空目橋

新河岸川

熱帯環境
植物館

三浦
集会所

高島平

新高島平

都営地下鉄有田線

高島平

高島園

トホ池

高島公園
高島平出所

トホ池

高島大門
土蔵

赤塚公園
スズメ城敷

赤塚公園 存差点

郷土資料館
赤塚城址
区立美術館
兼善寺
赤塚植物園

都立赤塚公園
大門地区

赤塚地区

首都高速5号線

ニルムク
マツナリ 自然

徳丸地区

松月院通り

赤塚中台通り

新大宮バypass

向梅川
安養
旧松月院通り

カバサキ
原根のおおはらさん
「本道」

前谷津川鉄道

赤塚・徳丸・荒川
フィールドマップ

赤塚

東武東上線

川越街道

東武東上線